

こんなこと、ありました。



自分たちで自動チェックイン機を使い搭乗手続き



緊張感のある？出発前(笑)



中心部から郊外に行くとなつつかしい中国に出会えます



豪華な食事にびっくり



市内のあちこちで工事が行われていました  
3年後、寧波市内と奉化区の間の新設道路と地下鉄が開通予定



おみやげ屋さんでの値段交渉も思い出の一つです



8/24 付と8/28 付の奉化日報で交流事業が紹介されました



私たちの訪問は、奉化区のテレビニュースでも紹介されました

# お別れ会の出し物

日 時：平成30年8月26日（日）17時30分

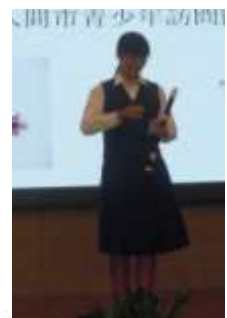
場 所：海百桃源酒店 1階宴会場

進行者：入間市 田中龍之介、高來理子

奉化区 汪勳（ワンモン）、陳奕辛（チンイーシン）

両市青少年の出し物（出演順）

No.	出し物名	氏 名
1	恋ダンス	【入間市】 全員
2	詩の朗読	【奉化区】 袁珂（ユアンカー）
3	ルービックキューブ	【入間市】 柳由香里
4	フルート演奏	【奉化区】 董芊綿（ドンチェンメン）
5	リフティング披露	【入間市】 高來理子
6	歌唱	【奉化区】 陳奕辛（チンイーシン）
7	リコーダー演奏	【入間市】 田中寿々乃
8	書道&箏のショー	【奉化区】 汪勳（ワンモン）と江珂盈（ジャンカーイン）
9	電子ピアノ演奏	【入間市】 指田遥香
10	合唱「君を乗せて」	【奉化区】 全員
11	世界に一つだけの花（中国語）	【入間市】 田中龍之介
12	合唱「朋友」	全員



全員で「朋友」の合唱



私は、今回中国を訪問していろいろなことを体験しました。体験したことやホームステイ先の袁珂（ユアンカー）さんと話したことで、日本との大きく違うところが沢山あるように思えました。

1点目は、学校の違いです。中国では、高校も「中学」と言うようです。それを聞いて、同じ学校で中学生と高校生が学んでいるのかと思いきや、そういう訳ではなく、両方とも「中学」というだけで、別々の学校ということを知りました。日本は、三学期制で6歳から義務教育が始まりますが、中国では2学期制で、7歳から義務教育が始まるそうです。学校制度が日本とは大きく異なります。また、日本に比べて勉強量がかなり多いように感じました。朝七時半から学校に行き、自主学習をしているそうです。宿題の量も多く、放課後、学校に九時半まで残っていても終わらない生徒もいるそうです。それほど中国は、勉強に力を入れているのだと思いました。私がホームステイをしていた袁珂（ユアンカー）さんは、英語がとても上手く、学力の高さを物語っていると思います。私も負けていられないと思いました。

2点目は、食事の違いです。中国では日本より食べる量が多いように感じました。日本では「一汁一菜」という言葉があるように、そんなに多くのおかずが食卓に上がることはありません。中国では、たくさんのおかずが食卓にずらりと並んでいました。また、盛り付け方も日本と違い、大きなお皿の上におかずをのせ、そのおかずをみんなですべて食べるというものでした。初めのうちは、兼用箸を使っていましたが、仲良くなるにつれて、自分の箸でおかずをとるようになりました。私はまだ慣れないです。食材や味付けなど日本とは異なるものもありましたが、どれもおいしかったです。

他にも報告したいことはたくさんありますが、用紙の都合上ここまでにさせていただきます。

今回の中国訪問は、とても勉強になりました。話す言語も、文化も、生活習慣も違いますが、それでも私は友達ことができました。それは、お互いに相手に興味と関心を持って接することができたからだと思います。自分とは違うからといって、相手を遮断するのではなく、自分と違うからこそ受け入れ、相手を尊重することが大切だと思います。そうすればきっと、私たちはたくさんを知ることができ、さらなる発展ができると思います。

### 1 この事業に参加するにあたっての目標

第1目標 中国語を使って交流をし、友達をつくること

第2目標 中国の文化を知り、体験をして、今後の生活に生かすこと

### 2 目標達成のために努力、研究したこと

家で中国語のプリントで練習をしたりしました

### 3 目標に対する成果(自己評価)

第1目標はクリアできたと思います。中国語の力が上がったと思います。

これから第2目標も達成できるように頑張ります

### 4 この経験を生かして、努力したいことや挑戦してみたいこと

日本を中国語で案内してみたいです

### 5 今回の訪問で一番印象に残ったこと

日本とは違うところがたくさんあるなと思いました



## 中国文化体験訪問団に参加して感じたこと

田中 龍之介



3年前、兄がこの派遣事業に参加していて、翌年には奉化区の錦屏中学校の学生が入間市を訪れました。その時兄のホストのシャオパンくんが僕の家にもホームステイしました。ホームステイの受け入れは、兄が一人増えたみたいで楽しかったのと、兄が見つけれなかったものを見つけに今度は僕が奉化区へ行こうと決めていました。

奉化区の街はとても活気があって、車も人も多く、渋滞も頻繁に発生するそうです。高速鉄道の寧波駅や杭州駅はホームがたくさんあり、空港みたいで規模がとても大きかったです。それに対して奉化駅はホームが2本しかなく、入間市駅と変わらないくらいの大きさでした。新しく整備された駅の印象でした。高速鉄道は、ほとんどが日本の新幹線と一緒に、揺れが少なくシートも快適でした。でも唯一、日本の新幹線と大きく違うところはホームでの待機時間が短いことと、駅の通過の量でした。

僕は英語が苦手です。中国語もしゃべれません。でもホームステイに少しも不安はありません。なぜなら、これまでの海外での経験から「言葉がわからなくてもなんとかなる。」とわかっていたからです。それに、今度は翻訳アプリという便利なツールがあり、ホストママは僕に話しかけると同時にスマホの画面で日本語訳を見せるという気遣いをしてくれました。

僕のホストは1つ年上のワンモンくんと言って、スポーツや習字が得意で、僕がお土産にあげた紙製のプラモデルを真剣に組み立てる集中力がすごかったです。ワンモンくんとは翻訳アプリで学校のこと、勉強のことなど話しました。

奉化区滞在の最終日、中国書道体験をしていると、通訳の方に呼ばれました。そこにはシャンプオくんがいて、びっくりしました。オーストラリア大学に行くために、寧波市へ英語を勉強しに行っていると、聞いていたので、会えるとは思っていなかったからです。そのあと、シャンプオくんの家に連れて行ってもらい、リビングに入ってまた驚きました。壁いっぱい英語で「お誕生日おめでとう」のカラフルな風船が目に入ってきたからです。前日は僕のお誕生日だったことを知ってお祝いしようと準備してくださったそうです。さらに驚きだったのは、ワンモンくんも同じ誕生日だったということ。偶然とは言え、2人が同じ誕生日で一緒にお祝いしてもらえたことは一生忘れられない思い出となりました。

僕にとって初めての中国訪問は、ホストファミリーをはじめ、奉化区の皆さんの温かいおもてなしと、団長・随行通訳・他派遣団員のおかげで、とても充実した体験・交流となりました。

### 1 この事業に参加するにあたっての目標あたっての目標

第1目標 中国と日本の違いをできるだけ多く見つける。

第2目標 中国文化にできるだけ多くふれる。また、日本の文化も伝える。

### 2 目標達成のために努力、研究したこと

派遣前にインターネットや家族に聞いて調べた。

### 3 目標に対する成果(自己評価)

ホストファミリーだけでなく、2つの中学校の生徒・先生とも交流できた。

### 4 この経験を生かして、努力したいことや挑戦してみたいこと

中国だけでなく、世界中の色々な国々へ行って、異文化体験をしたい。

### 5 今回の訪問で一番印象に残ったこと

同じアジアに位置するのに、中国は日本と食生活や生活習慣が大きく違うことがわかった。

## 中国での思い出

田中 寿々乃



私はこの事業に参加して初めて中国に行きました。日本から近いけれど、文化が異なる中国でホームステイをすと思うと少しの不安と期待を覚えました。

実際に中国に着くと、看板なども全て中国語で空気もなんとなく日本と違うような気がして、ここは本当に中国なのだなと実感しました。

奉化区の街並みには驚きました。ビルやマンションが多く、車やバイク、歩行者もとても多かったです。また、私のホームステイ先の家もマンションでしたが、とても広く、綺麗でマンションなのにと驚きました。私の中で中国のイメージはあまり発展していなものでしたが、実際に中国に行くと、とても発展していて、とてもきれいでイメージが大きく変わりました。

ホストファミリーとは積極的にコミュニケーションをとろうと意識して過ごしました。事前研修で教えてもらった中国語でのあいさつや自己紹介を積極的に言ったのですが、どうやらイントネーションが違うらしく、中々伝わりませんでした。それでも、ノートに絵を描いたりしてコミュニケーションがとれたので良かったです。英語でも話そうと思ったのですが、レベルが高すぎて聞き取れませんでした。このことで、改めて言語の大切さを学びました。来年までに中国語も英語も、もっと話せるようにしておきたいです。

ホストファミリーや地元の人のおかげで、たくさん中国の事を学べましたが、ホストファミリーや地元の人以外に、この訪問団の皆がいてくれたから学べたこともたくさんあります。お互いのホストファミリーとその家のこと、困ったことを相談し合う等、たくさん話をしました。最後の2日間、上海に行ったときも、街を歩いていて、私一人では気付かなかったことも教えてくれたり、逆に教えたりしました。これらの事があったからこそ、たくさん中国について学べ、新しい発見をたくさん見つけられ、色々な経験ができました。

私はこの事業で学んだり、感じた事を生かして来年、中国から来る訪問団の人たちをたくさんおもてなししたいです。その時には、また5人で協力して、入間市を、日本を最大限に楽しんでもらえるようにしたいです。この中国での6日間は、私の中で忘れられない大きな思い出になりました。本当にありがとうございました。

### 1 この事業に参加するにあたっての目標

第1目標 ホストファミリーと積極的にコミュニケーションをとる。

第2目標 中国の文化を学び、友だちや家族に伝える。

### 2 目標達成のために努力、研究したこと

できるかぎり中国語であいさつ等を言うようにした。

### 3 目標に対する成果(自己評価)

イントネーションがおかしかったようで、中々伝わらなかったけれど、自分なりに工夫して絵や英語を使い、うまくコミュニケーションがとれた。

### 4 この経験を生かして、努力したいことや挑戦してみたいこと

もっと英語の文法ではなく、しゃべることを勉強したい。

### 5 今回の訪問で一番印象に残ったこと

中国の道路。信号の数も少なく、形も異なると思った。また、横断歩道を使わないで渡る人が多いことも印象深かった。

## この事業に参加して学んだこと

指田 遥香



私はこの事業に参加して、今まで以上に外国に興味を持ちました。今回は私にとっては初めての中国、初めてのホームステイで、最初は生活していけるか不安でした。しかし、ホストファミリーが優しく迎えてくれて、楽しく生活することができました。歓迎会では、少しの中国語と英語でお話ししました。言葉が分からないという状況にいたことがなく、戸惑いながらも一つ一つ丁寧に伝わるように話しました。私が一生懸命話していることを、中国の子はしっかりと聞いてくれました。4日目に訪れた奉化第二中学校では、日本語を勉強している学生たちとの交流がありました。ここでは、各グループに分かれて日本のことを紹介したり、ゲームをしたりしました。とても日本語が上手で聞きとりやすく、言葉が通じたのでホッとしました。外国の学校との交流会はとても良い経験になりました。他にも、寧波市で有名なロモンパークに行きました。そこではジェットコースターやバイキングなど絶叫系アトラクションに乗り、とてもテンションが上がったので、あまりしゃべったことのない子もみんなで遊園地を楽しむ事が出来ました。私たち日本人はロモンパークに行くのが初めてだったため、中国のお友達にガイドをしてもらうことにしました。人気のアトラクションから少しマニアックなアトラクションまで幅広くガイドしてもらい、遊園地好きの私はとても楽しく、最高な時間を過ごすことができました。

また、別の日に中国の文化書道をしました。一人一人イメージに合った漢字を書道の先生に選んでもらい私は「愛」という文字を書きました。その後はインタビューを受けました。本格的なインタビューを受けてみて、内容をすぐに考えることは難しく、緊張するけれど、自分の考えを堂々と話せました。お別れ会では、日本人と中国人が自分の特技を発表しました。私はピアノを演奏し、ホストファミリーのカーインちゃんはお琴を発表しました。お琴は、日本ではあまり身近にないので新鮮な気持ちで演奏を聴くことが出来ました。音色がキレイで美しかったです。これからも積極的に学校へ行き、異文化を学んで、将来は国際的に活やく出来るようになりたいです。また、どこの国へ行っても困らないように、英語を上達出来るようにしたいです。入間市代表の訪問団として中国への研修に行かせていただき、大変貴重な体験が出来ました。中国語や異文化の知識が得られたので、今後の活動に役立てて行きたいと思います。この事業を企画してくれた入間市国際交流協会の皆さんを初め、中国で生活をさせていただいたホストファミリーの皆さん、奉化区の皆さん、ありがとうございました。

### 1 この事業に参加するにあたっての目標

第1目標 日本と異なる文化や生活習慣を学ぶ

第2目標 自分から積極的に中国人と会話する。

### 2 目標達成のために努力、研究したこと

ホストファミリーに文化のことを教えてもらい、中国に行く前に中国語や英語を勉強したこと。

### 3 目標に対する成果(自己評価)

第1目標の文化では、色々な異文化を学ぶことができた。

第2目標の会話については、全て中国語ではないけれど英語などを通じて会話することができた。

### 4 この経験を生かして、努力したいことや挑戦してみたいこと

今回の経験を生かして、外国に行った時に日本語以外で外国人に話しかけたり、初対面の人でも仲良くなれるようになりたい。そして国際的に活躍できるようになりたい。

### 5 今回の訪問で一番印象に残ったこと

ロモンパークで中国人と仲良くなれたこと。

日本人も中国人も遊園地が好きだったので行けて良かった。

### ○食事について

私が今回中国に行って、食事の時に日本との違いを感じたのは3つあります。

1つ目は、中国の皆さんが私のお皿に自分のお箸で料理を「これも食べて」とよそってくれたことです。日本では家族では家族ならばともかく、親しい人でもしません。普通はとり箸があります。中国でも私たちに気を遣ってくれたのか、とり箸はありませんでした。自分の箸でよそってくれびっくりしました。

2つ目は、口をあけて音をたてながら食べていたことです。日本で口をあけて音をたてながら食べていたら、「音をたてない」と注意を受けます。なので、これもおどろきでしたし、日本とは違うと感じました。

3つ目は、料理を少し残すことです。知ってはいましたが、実際に見て「本当に少し残すんだ」と思いました。日本では完食が礼儀なので、文化が違うと感じました。

中国での食事では驚くことがたくさんありました。その食事の中で、一番おいしかったのは「ぎょうざ」です。具がどれも大きくておいしかったです。

### ○コミュニケーションについて

私は今回、英語も習いたてなので、コミュニケーションをとるのは難しいと思っていました。しかし、初めに中国語で「私は高来理子です、よろしくお願ひします」と、あいさつをするとうれしそうに「私は陳奕辛（チンイーシン）です」と、言ってくれて、積極的に話しかけるようにしました。すると、話しかけてくれて、もっと話ができるようになりたいと思いました。来年迎えるときは、もっと話ができるように、まず英語をしっかり勉強をしていきたいと思ひます。

### ○感想

中国を訪問して、コミュニケーションがとれない事の大変さ、文化の違いを学びました。私の周りでは、中国のことをあまり良く思っていないで、中国から日本に来ていた「コウジくん」に嫌な態度をとってしまう人がいたので、その人のためにも、訪問で学んだものを私だけのものにせず、理解し合うことの大切さを周りの人にも積極的に話していきたいと思ひます。

中国にホームステイという本当に貴重な体験が出来たので、良かったです。

#### 1 この事業に参加するにあたっての目標

第1目標 ホストファミリーのみんなとしっかりコミュニケーションをとっていく。

第2目標 中国の文化、生活習慣を学んでいく。

#### 2 目標達成のために努力、研究したこと

中国語の練習をしたり、調べたり、文化や生活習慣を事前に勉強した。

#### 3 目標に対する成果(自己評価)

スマホアプリを使わずに英語でコミュニケーションを積極的にとった。日本と違う点や似ている点をたくさん見つけることができた。

#### 4 この経験を生かして、努力したいことや挑戦してみたいこと

英語の勉強を努力していきたい。また、来年のためにも中国語を勉強していきたい。

#### 5 今回の訪問で一番印象に残ったこと

ホストファミリーと一日過ごした日。そこで乗馬をした。日本では歩くだけなのに走ったりもして、とても楽しかった。

## 世界平和へ繋がる草の根交流

通訳 盧 英蘭

3年ぶりに入間市青少年訪問団の随行通訳として奉化区を訪れ、再びたいへん有意義で貴重な経験をさせていただきました。

まず、この場を借りて入間市の青少年たちを熱烈に歓迎し、温かく迎えていただきました奉化区の外事事務室の方々、学校関係者及びホストファミリーの方々に感謝申し上げます。

また、青少年訪問団を送り出すにあたり、様々な事前準備、研修などに携わっていただきました市役所の方々に敬意を表すとともにお礼を申し上げます。

訪問初日、青少年たちは恥ずかしさのあまり、お互いあまり話さなかったけど、2日目の寧波博物館の見学を経て、テーマパークで一気に距離が縮み仲良くなれたのを見てホッとしました。

訪問中、入間市の青少年たちは寧波博物館で展示物を通して、中国の歴史や文化に触れただけでなく、ホストファミリーのご好意で、当地有名な篆刻家、書道家、画家を招き、篆刻を披露して頂いたり、書道を教えていただいたり、また一人一人にスケッチしていただいたりと、中国文化に浸る充実な時間を過ごしました。青少年たちにとってはかけがえのない経験になったでしょう。

また奉化第二中学校では日本語学科の生徒と交流授業が設けられ、入間市の青少年が第二中学校の生徒の日本についての質問に答えたり、ジェスチャーゲームをしたりと大盛り上がりでした。日本に長期住んでいる私より日本のアニメに詳しい第二中学校に生徒たちには驚きの連続でした。日本へ留学経験のある先生方の綿密な事前準備には感心と感謝でいっぱいです。

お別れ会では、子どもたちはそれぞれ才能を発揮し、日本で大流行した「恋ダンス」から始まり、大きな盛り上がりを見せてくれました。最後の「朋友」の歌はやはり3年前と同じじわりじわりと心が温かくなり、改めて両市の青少年たちが一つになったことと感じました。特に印象的だったのが、あるホストファミリーの方の4日間の感想でした。それは「日本の青少年たちは健康な体を持っており、自分に厳しく律する生活習慣、態度にはととても感心しました。これは私たちが見習うべきところです。中日の青少年たちは友達でありながら未来において競争相手でもあり、お互いにいいところをまなび合い、ともに成長していきたいですね。」です。訪問団の一員としてこのような言葉を聴けたのは入間市の青少年たちがとても誇らしく感じました。またゆく先々で村山団長や青少年たちはたくさんの場面で奉化区のみなさんや青少年たちから優しさや細かい配慮、都市の発展の速さに感心する言葉を毎日耳にしていたので、一中国人としてもとても誇らしく感じました。

お別れの日、奉化駅で青少年たちは別れ惜しみながら来年入間市でまた会う約束を交わし長らく手を振り合いながら別れました。出発したときの不安と違い青少年たちの表情には何かいっぱい得たような満足感と友達と別れ惜しむ寂しさと混じり入っていました。

今回の奉化区訪問は短い4日間でしたが、青少年たちが国を越えて作った友情と貴重な異文化体験は将来を担う彼らにとってはきっと人生の宝ものになるでしょう。また彼らが自分たちの目でみたこと、耳で聞いたこと、肌で感じたことは、彼らが家族や友人に伝えることによっ



て、奉化区と入間市ないし中国と日本の友好をより一層深めていくことになるにちがいないと思います。また、このような草の根交流の一点一滴こそが世界平和にも繋がると信じております。

今回の訪問は、また私にとっても貴重な経験であり、これからも中国と日本との草の根交流に微力ながらも携わって行きたいなあと改めて決心しました。

最後に、あらためて事前準備から色々な場面で携わっていただきました入間市の職員の皆様、訪問を受け入れていただきました奉化区関係者の皆様やホストファミリーの皆様方に心より感謝申し上げます。



寧波博物館前にて



七宝老街にて



七宝老街にて



奉化第二中学校日本語クラスの皆さんと。  
奉化第二中学では日本語を学ぶ生徒と交流！  
日本への関心の高さには驚きでした！

## 「行動」すること

村山 泰貴

今回の奉化区青少年中国文化体験訪問団事業は、ご父兄の事業に対するご理解と参加した5名の勇気ある決断により、無事に終えることができました。

事前に配付した「事業の考え方」に明記している、①入間市の中学生代表としてふさわしい行動をとる、②入間市と奉化区の友好親善に努める、③常に学習意欲と責任感を持ち、相互に協力して団の融和を図る。

初対面から数回しか顔を合わせていない異年齢のチームが、「どうやって仲良くなったか」、「何が原因で揉めたか」、「どうやって仲直りしたのか…」。個々の弱点を周りが補い、盧英蘭さんのノウハウや経験、ファインプレーに支えられ、チームとしてまとまりました。その結果、上記の①から③を見事に達成することができ、奉化区との友好親善は、一步も二歩も前進しました。

錦屏中学校の先生に入間市の5名の印象を訪ねたところ、次のような回答をいただきました。

- ・生活習慣が身についている
- ・健康的な身体を持っている
- ・勉強する意識が高い、すぐに覚える

また、隣国ということで、「競走（あえて“走”）相手ではあるものの、支援が必要な時は協力し合いこれからも交流を通じて理解し合うことが大切だ」と、お話ししてくださいました。この言葉は、日本の青少年全体に対する理解を深めたと言えます。皆さんの勇気ある行動は、多くの大人の共感を得ました。体験したこと、感じたことは、自分だけに留めず家族や友人に積極的に伝えてください。そして、奉化区で深めた友情を大切にして、日中友好の架け橋となるようお願いするものです。

私も、今回の訪問で入間市が今後計画する受入れ事業に学びやヒントに繋がるものがありました。

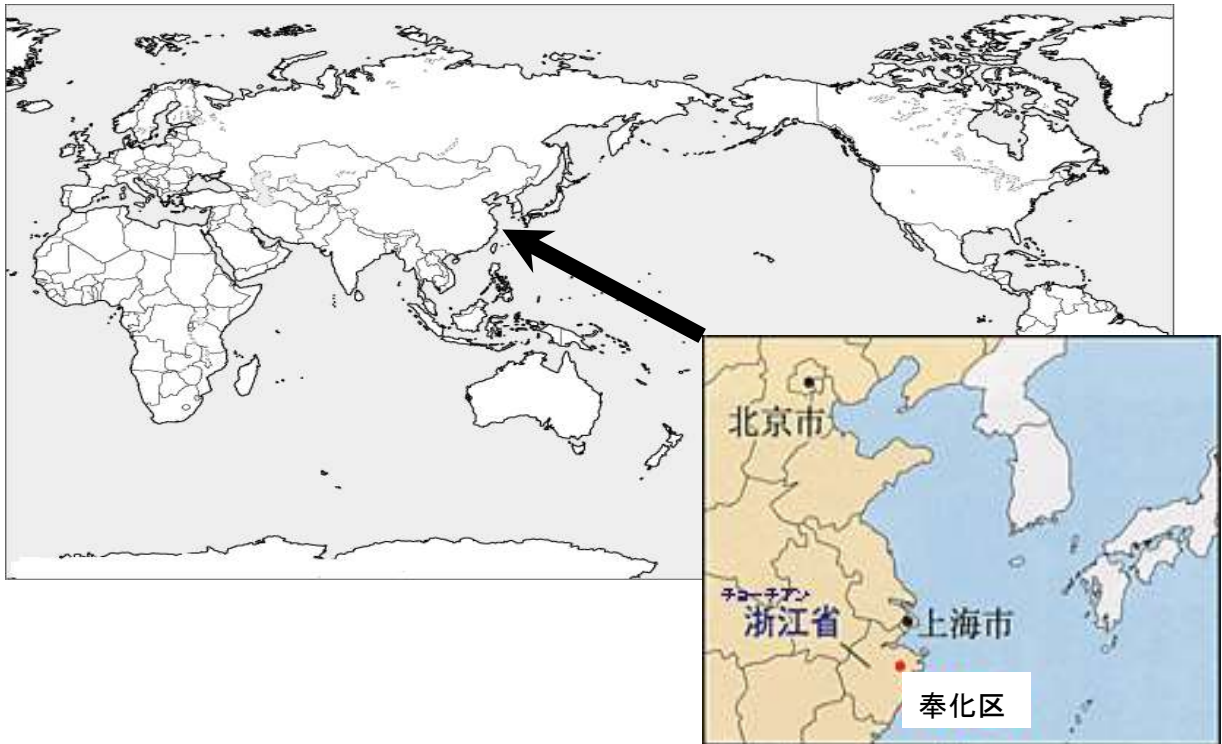
奉化区の窓口である奉化区外事事務室は、竺好（ズーハオ）さんが新たに担当者に加わりました。錦屏中学校の先生方とともに作り上げた今回のプログラムは、「友好親善」を意識したプログラムと感じました。双方の緊張をほぐすため2日目にテーマパークを組み入れる、4日目に日本語を学ぶ高校生との交流の場を設けるなど、詰め込み過ぎず、ゆとりのあるプログラム作りは、気づきとともに価値のある学びとなりました。

奉化区は、2016（平成28）年11月に“奉化区”と区制変更が行われ、寧波市で一番新しい区となっています。「三年で大きな変化を 五年で新しい奉化を」のキャッチコピーで、区内では様々な公共事業が展開されています。初めて見る者には、そのスケールの大きさには驚かされるばかりで、代表的な事業は、寧波市内と奉化区内を結ぶ、道路と地下鉄の高架線工事です。この事業は三年後の完成を目指し、急ピッチで工事が進められていました。この他にも、高層マンションや公園、商業施設など各所で工事が行われており、クレーンと工事現場の囲いを至るところで目にしました。寧波市は、奉化区内の整備に注力することで、区民に夢と希望を与え、経済大国・中国を大いに感じるものでした。

国際交流担当は、異文化への理解を深める機会を設けるのが仕事です。「教科書では教わることのできないこと」として青少年を対象に姉妹都市・友好都市交流事業を進めていきたいと考えています。行動には「勇気」が伴います。自ら判断し「勇気」を持てる青少年を一人でも増やし、入間市から世界に視野を向けた人材が多く育つことをお願いとし、結びとします。



帰国便の航空機より上海市街を望む。緑と都市の調和が図られ、きれいな街なみです



編集・発行（平成 30 年 9 月 30 日）

〒358-8511 入間市豊岡 1-16-1

入間市自治文化課 国際交流担当／入間市国際交流協会

電話 04-2964-1111 内線 2147／FAX 04-2964-1720

E-mail [i-society@city.iruma.lg.jp](mailto:i-society@city.iruma.lg.jp)

